

17

昭和二十一年十二月四日

對日賠償計畫に關する日本政府の見解（案）

裏面白紙

日本經濟に關する總括的説明

一 平和經濟の規模

二 必要な外國貿易の規模

三 生活水準と外國貿易

四 輸出貿易の内容

五 雇傭から見た將來の日本經濟

六 國民所得から見た將來の日本經濟

七 海運業の重要性

八 戰爭被害の恢復的負擔

九 現下日本の經濟的窮狀

十 結言

資料

一 貿易から見た日本經濟の將來

二 雇傭から見た日本經濟の將來

三 國民所得から見た日本經濟の將來

四 日本海運業の將來

五 戰爭被害と其の恢復に要する負擔

裏面白紙

對日賠償計畫に關する日本政府的見解  
 對日賠償計畫に關する日本政府的見解

會に於ては、日本政府が各種の軍事任務を遂行し、その結果として世界の秩序を維持することを期す。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。

日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。

日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。日本は、その義務を履行し、世界の平和と繁栄に貢献するものである。

裏面白紙

殊な形態を齎らしたのであり、政治的には國民の封建的支配階級。
 一封する無批な盲従と、市民的政策的に國民の伴つたのである。
 せられず、國內資源の不足と人口の過剰と云ふ内在的原因の存在
 と相俟ち、武力による殖地及び海外市場の獲得に向ふことにな
 つた。かくて日本經濟全體に極めて濃厚な軍事性的性格が與へられ
 たのである。日本經濟全體に極めて濃厚な軍事性的性格が與へられ
 肉強かる。路は今次の戦に上つて破砕された。世界人類の環境も弱
 に強かる。路は今次の戦に上つて破砕された。世界人類の環境も弱
 にも代り世界における政治的經濟的諸矛盾を計畫的に解決せんとす
 るとも、埋入の計畫は、政治的經濟的諸矛盾を計畫的に解決せんとす
 がある。國民の生活水準の向上を期待し得る時代において働かせる
 べきか。見解に基き、聯合國諸國民が日本の將來における平和的
 任務に信頼せられ、賠償の決定に富つても日本經濟における一面
 軍事的目的を有する次第であるといは、徹底する決定の下され
 平和的切望される次第であるといは、徹底する決定の下され
 ること切望される次第であるといは、徹底する決定の下され

裏面白紙

限が若し一軍需産業のみならず平和産業や貿易の規模に迄大なる制  
 が困難となり、かくては健全なる民主主義の發展をも阻害するお  
 そればなしとしない。特に消費財工業に迄制限が設けられることが  
 あれば、日本国民から将来の経済生活改善に對する希望を殆ん  
 ど奪ひ去ることである。かりて、國際收支の不均衡を來たし、今  
 後世界經濟への影響を與へることとなり、惹いては世界經濟の繁榮にも好  
 ましく、聯合國の經濟的負擔となり、惹いては世界經濟の繁榮にも好  
 しからざる影響を與へることとなり、惹いては世界經濟の繁榮にも好  
 以下に於いて賠償に關聯する基礎的諸問題について日本政府の  
 見解と希望の概要を記述する。

平和經濟の規模を維持することに當つては先づ日本國民は或程度の合  
 理的な生活水準を維持することに當つては先づ日本國民は或程度の合  
 理の生活を維持することに當つては先づ日本國民は或程度の合  
 持するに必要なる産業の規模を決定するに日本國民は或程度の合  
 政府として、滿洲の變前日本が平和な經濟を営んでゐた一九三〇  
 基準の一應、この年の実績を基礎として國際收支を研究し、及雇  
 の三つの見地から將來の日本經濟の規模に關して研究を行ひ、一

裏面白紙

つ日本の経済も深刻な不景氣を経験した時代であり、各種物資の生  
 産及び消費も不振であつて過去に比して日本國民が最も豊かな生  
 活を営んだ一九三〇年當時に比すれば國民所得及主要物  
 資消費実績等から見て約三〇%位の上昇が比較的軍事的性格の  
 一薄れる経済を營んだ年としてこの年を撰定したのである。(資料  
 右に參照) 明らかなきは、後の日本經濟にとつては、いか  
 しに國際收支のバランスを得るか否か、二つの點が最も主要な問  
 題であるから、聯合側において日本の平和經濟の規模を檢討  
 せられる際には、國內消費を賄ふに足る工業生産能力の他に必  
 ず物の輸入を可能ならしめるための輸出産業の所産能力を  
 併せて考慮せられることが要請されるのである。又國民が檢  
 討すべき雇傭機懸與へる見地からも工業の種類と規模が檢  
 討されるべきである。

裏面白紙

ニ

必要な外國貿易の規模日本内地人口一人當りの食糧、衣料及び  
 其の消費資財の需量例へば米一六〇ポンドを標準  
 とし、砂糖一三・八斤、鹽二四斤、織製品一〇ポンドを規  
 準とし、食物資財の輸入額を八億七千萬圓とす  
 ば、食物資財の輸入額は左表に示すとほり合計二七億圓餘と  
 なる。

食糧	衣料	その他	合計
一、五八二、二〇〇、〇〇〇圓	一、七四〇、〇〇〇、〇〇〇圓	二、七三〇、〇〇〇、〇〇〇圓	六、〇五二、〇〇〇、〇〇〇圓

一方これに見合ふべき輸出は國內資源の貧弱のため輸出原料  
 を製造せねばならぬ。又二億圓近くの受取超過であつた貿易外  
 債は海運收入と海外投資及び労働利益の消滅によつて逆によ  
 る。従つて前後の支拂超過となり、以上の結果を取纏めれば表の如  
 く三億圓に達する。支拂の超過は、九億八千萬圓を必要とする。  
 必要物資輸入額

二七億圓

裏面白紙













料見のい	二地工て過	工計業	家の専	公務自由業	交通	商業	土建	鑛業	水産	農業	業種別人口	要職人口	有率	總人口
照一す	から	業人	計に	の他	自由業						人口	人口		
れをのい	ば持数て	は日	本	一							一	三	八	
かつは	約本	九三	一七	二	三	〇	三	四	〇	〇	五	六	〇	總
かと八が	五五	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇	〇	四	〇
規は五最	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇	〇	六	〇
模極〇大														定
のめ萬の														%
工て人工業	二										一	二	六	一
業困で業	九四										四	六	四	一九三〇年実績
を難あ人口	六九	八〇	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	六	四	五	
目であたを	二一	七〇	〇〇	四〇	六	一	六	三			二	四	五	
標とるこ持	〇三	一	二	五	五	六	三	六	八	一	〇	六	〇	
せけとつ														%
ねれをた														(失業者をも含む)
ねれを思														
ばどもへ														
なら完														
ない全														
一雇千														
一億萬														
一資の人														

裏面白紙



その製糸、紡績、織布、染色、加工等  
窯業、美術工藝品、玩具、その他雜貨類

裏面白紙





しては一九三六年頃の規模を要する(資料三参照)  
 次の製造工業における四七億圓の所得を従來の實績及び重  
 工業の制限せられた將來の見透しから制振つて見ると結局紡織  
 工業、機械器具工業、化學工業に重點を置かざるを得ぬことと  
 なる。

紡織工業	生産額(億圓)	所得(億圓)	製造工業の總所得に對する比率
機械器具工業	一三〇、六	一八、六	一八
化學工業(紙パルプ、レーヨンを含む)	一四、二	九、〇	一九
海運業の重要性	一五、六		

七

我が國は平和經濟維持の観点よりするも左の如く海運業を盛ん  
 ならしめねばならぬ必要を備へてゐる。海運に依存すること  
 1 地形上國內輸送においても著しく海運に依存すること  
 2 國內資源貧弱なるため食糧、鐵石、石油その他必需物資を多  
 量に輸入する要があり、一方輸入資金を得るため輸出を最大  
 限に振興せねばならぬが輸出とも海上輸送に全面的に依在  
 3 國內の食料の重要供給源として並に重要輸出品目として  
 水産業を振興する要ありそのためにも海運、造船等の關聯事

裏面白紙

4  
 業の維持を必要とするに資するところ極めて大なること  
 海運収入の国際收支改善に資するところ極めて大なること  
 近即ち戦前我が國海運業は國際收支の面において差引約二億圓  
 となく純収入を擧げて外糸、綿織物と並ぶ無形の重要輸出品日  
 必需輸入物の増大と輸出物の減少との極端な差を生じた。少  
 る今後の日本経済にとつて海運業の意義は極めて重大である。か  
 に留め見地から運送は我が國平和經濟の要として必要不可欠  
 ものである。海運は我が國の輸送の要として必要不可欠なものと  
 くて輸入物の輸送に必要なる船隻と國內相互の輸送及び最  
 低度の保有を認め輸送に必要なる船隻と國內相互の輸送及び最  
 程度の商業的見地に於ける必要なる合理的基準に捕鯨船その他  
 制限も商業的見地に於ける必要なる合理的基準に捕鯨船その他  
 希望致したい。大型船の建造乃至は保有を認め捕鯨船その他  
 船にたいは大型船の建造乃至は保有を認め捕鯨船その他  
 る。なほ又戦争による船舶の減少し平時を認め捕鯨船その他  
 かに不足する現存の船舶を希望するに減少し平時を認め捕鯨船その他  
 非とも免除せられんことを希望する。資料四参照）

裏面白紙

ハ 戦争被害の復元負担の甚しい被損害並びに戦中における補修不足に基づく

設けられたる平和的経済維持の必要の他の諸施設の復元

の事柄に及ぶ資材の追加は、鋼材の需要が著しく

のため、資材の追加は、鋼材の需要が著しく

の事柄に及ぶ資材の追加は、鋼材の需要が著しく

大なりと、資材の追加は、鋼材の需要が著しく

築物、道路、通信等に及ぶ資材の追加は、鋼材の需要が著しく

五、建築物の被害の概略を述べ、(資料)

四、空襲被害による喪失戸数は二六五戸で、戦災前の全戸数の約一

等の不足分を充たすためには、不足戸数は四〇萬戸と

の不足分を充たすためには、不足戸数は四〇萬戸と

と併せて、平均年間八萬戸の新規増加に及ぶため、

資材の需要は、平均年間八萬戸の新規増加に及ぶため、

萬噸、鋼材は百萬噸を要する。

二六〇%の貨車八%の工場等建築物は二〇%、軌道は五%連絡

電線、道被、係の戦災被害率は、工場等建築物は二〇%、軌道は五%連絡

裏面白紙

船は六五%であつてこれを五年間に恢復するた  
 年間は六五%の鋼材を要するのみにて、戦時中  
 百萬立方を要するのみにて、戦時中三萬中及び  
 の補充を必要とするのみにて、戦時中三萬中及  
 ことさへ不可能で全くと交通地獄と未曾有の滞  
 る。

裏面白紙

(三) 通信被害  
 三九〇に達し、剩へ戦時中の補修不足のため、八〇市外線回線の  
 めて不良な状態にある。これを五ヶ年間に回復するためには  
 一年間に鋼材四萬噸、銅一萬四千噸、鉛二萬四千噸を要する。  
 (四) その他戦災の甚しかつたものに船舶がある。太平洋戦争の  
 初頭、日本は六三、八萬噸の船舶を保有したのに終戦時に  
 はこれが一五三萬噸に低下し、損害を受けたものが特別に大都市に集中  
 してゐた。又各種の工場も被害を受けたが、中小工業が大なる  
 被害を受けた。鋼材及煉出品の生産に従事する中小工業が大なる  
 戦時中の諸便及び補修不足による消耗  
 (五) 戦時中の諸便及び補修不足による消耗  
 及戦災後の資材不足に上る補修不良のため、戦時中の諸便と戦時中  
 際、運轉可能な能力は建設當時の能力に比して、大巾に減少し、資  
 材とすばる例が多額の新規建設に近大の資材・資金の投下を必  
 要とする。公需能力の半以下のもは火力発電所の如きも現在  
 実能力は公需能力の半以下のもは火力発電所の如きも現在

裏面白紙

九

現下日本の経済的弱状  
 は戦後日本の著しい生産低下とインフレトシ  
 ン賦課の急進による影響は戦後日本の著しい生産低下とインフレトシ  
 の不足はあらゆる産業及び交通を麻痺せしめ現在の生産額に比し平  
 時の十分の需にすら達しない。戦時中の略奪的増産は戦後の生産回復に  
 三十分の一にすぎない。戦時中の略奪的増産は戦後の生産回復に  
 戦下のために平時の生産を補填する以上、戦後の生産回復に  
 現下の日本経済は生産を補填する以上、戦後の生産回復に  
 過度の日本経済は生産を補填する以上、戦後の生産回復に  
 し、主として日本経済は生産を補填する以上、戦後の生産回復に  
 におけるインフレの生産を補填する以上、戦後の生産回復に

裏面白紙



崩壊を停止せしめしめることには極めて困難と認められるのである。このため、右の如くであることは自國の経済のみによつてかかるものであるか。

二次製品原材料	計	肥料 その他	鐵礦	炭道	海陸軍用
	一〇三〇	一一一五	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	一六六〇	一一六〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

(再製は右部門)

第三、四半期

第三、四半期

第三、四半期

以上七の如き經濟的弱狀を打開するた  
 めには石炭、鐵鋼、その  
 他基盤資材であるが、石炭の増産、  
 ばなれぬ一方、鐵鋼の生産は、戦時中  
 の制限、不足のため、極度に不  
 要であり、循環の例へは、本年第三  
 半期（六月）計は九月及び  
 化する傾向にある。十月、十一月  
 第三、四半期（六月）計は九月及び  
 十月、十一月の必要量に對して、  
 増産に對して、配當は一〇%程度に  
 示す。

裏面白紙



ら。此の際。鋼材。電油。その他。原料の輸入が許容せられ自力  
 による。経済恢復の基礎を興へられ。その輸入が許容せられ自力  
 により。又。出。來。得。れば。ある。程度。の。ケ。レ。デ。ツ。ト。の。備。屯。を。受。け。日。本。國。民  
 更に。又。出。來。得。れば。ある。程度。の。ケ。レ。デ。ツ。ト。の。備。屯。を。受。け。日。本。國。民  
 負。増。と。なる。希。望。を。與。へ。る。と。共。に。自。本。國。民。が。永。く。聯。合。國。の。經。済。的  
 負。増。と。なる。希。望。を。與。へ。る。と。共。に。自。本。國。民。が。永。く。聯。合。國。の。經。済。的

裏面白紙

六  
繰

(一)にた

(二)

以上言  
 一、申述べたこと  
 二、希望を明瞭に  
 三、賠償請求の  
 四、決定に當つて  
 五、賠償の考慮せ  
 六、撤去の實施  
 七、多額の工事  
 八、困難な事業  
 九、現在、賠償の  
 十、撤去の費用  
 十一、本邦に於て  
 十二、即ち、他の  
 十三、その為の  
 十四、費用の  
 十五、撤去の  
 十六、費用の  
 十七、多額の  
 十八、賠償の  
 十九、費用の  
 二十、撤去の  
 二十一、費用の  
 二十二、多額の  
 二十三、賠償の  
 二十四、費用の  
 二十五、撤去の  
 二十六、費用の  
 二十七、多額の  
 二十八、賠償の  
 二十九、費用の  
 三十、撤去の  
 三十一、費用の  
 三十二、多額の  
 三十三、賠償の  
 三十四、費用の  
 三十五、撤去の  
 三十六、費用の  
 三十七、多額の  
 三十八、賠償の  
 三十九、費用の  
 四十、撤去の  
 四十一、費用の  
 四十二、多額の  
 四十三、賠償の  
 四十四、費用の  
 四十五、撤去の  
 四十六、費用の  
 四十七、多額の  
 四十八、賠償の  
 四十九、費用の  
 五十、撤去の  
 五十一、費用の  
 五十二、多額の  
 五十三、賠償の  
 五十四、費用の  
 五十五、撤去の  
 五十六、費用の  
 五十七、多額の  
 五十八、賠償の  
 五十九、費用の  
 六十、撤去の  
 六十一、費用の  
 六十二、多額の  
 六十三、賠償の  
 六十四、費用の  
 六十五、撤去の  
 六十六、費用の  
 六十七、多額の  
 六十八、賠償の  
 六十九、費用の  
 七十、撤去の  
 七十一、費用の  
 七十二、多額の  
 七十三、賠償の  
 七十四、費用の  
 七十五、撤去の  
 七十六、費用の  
 七十七、多額の  
 七十八、賠償の  
 七十九、費用の  
 八十、撤去の  
 八十一、費用の  
 八十二、多額の  
 八十三、賠償の  
 八十四、費用の  
 八十五、撤去の  
 八十六、費用の  
 八十七、多額の  
 八十八、賠償の  
 八十九、費用の  
 九十、撤去の  
 九十一、費用の  
 九十二、多額の  
 九十三、賠償の  
 九十四、費用の  
 九十五、撤去の  
 九十六、費用の  
 九十七、多額の  
 九十八、賠償の  
 九十九、費用の  
 百、撤去の  
 費用の

裏面白紙

三

等をに調るは賠い。は之工等  
 希つ遠こと償。多を場装  
 望い、と、現償。量。を場置  
 すてあ、と在施。の。賠償を  
 るはる、と設の資引。主  
 もコひに備の材取。とす  
 のンは限を撤。及。國。と  
 でマ移。現。に。部。お。自  
 あ。設。状。に。分。い。工  
 る。先。に。よ。て。品。再。場  
 。ヤ。に。つ。は。を。に。に  
 ル。お。の。て。は。新。に。お  
 。け。と。解。日。に。し。つ。て。特  
 べ。解。證。本。に。運。使。用。に。し  
 シ。建。釋。日。府。製。造。可。能。か  
 ス。に。對。の。港。は。そ。の。務。の。積。す  
 によ。す。從。の。港。は。そ。の。務。の。積。す  
 つ。る。つ。に。お。い。て。密。積。す  
 て。技。術。不。足。部。分。の。積。す  
 行。は。者。の。派。遣。等  
 れ。る。こ。と  
 と。等。

裏面白紙